

<http://fashionjp.net/highfashiononline/blog/hasegawa/2010/11/post-3.html>

オランダのアート&デザイン新言語

2010.11.26 update

「オランダは土地が海面より低いため、そのまま何もしないでいたら国が沈んでしまう。何か行動を起こすしかなく、だから堤防を築き、風車や水路を利用して排水するという工夫を重ねてきた。昔からオランダ人は問題を解決するため行動を起こすという体質が染み込んでいる」

そのような話を知り合いのオランダ人がしてくれたことがある。だからオランダのアーティスト、デザイナーには問題を解決しようとする意識が高い、と決めつけるのは強引かもしれない。それでも、この国から生まれるアートやデザインには芸術的に美しいというよりは、何かを諭す narrative = 語りの要素がみられると思う。たとえば、今の社会を取り巻く風潮を隠喩的にシニカルに表現したアート、デザインであったり、社会が抱える問題を解決する提案としてのアートだったりする。こうしたオランダの今のクリエイションに触れることができるのが、現在、東京都現代美術館で開催中の「オランダのアート&デザイン新言語」展。

Martijn Engelbregt マルタイン エンゲルフレクト







PLEASE TOUCH

地球、食物 隣人、そして自分自身とのリアルなコミュニケーションを失いつつある日常に、新たな「接触」の機会を生むプロジェクト

参加しているのは、ファッション、家具、ジュエリー、インスタレーションと異なる分野で活動する4人のクリエイター。家具のデザイナーのマーティン・バースは18世紀の家具の一部を燃やして形を変容させることで新たに生まれた家具《Smoke》を展示している。「人は、永遠の美をそのままの形で所有したい、という願望を抱きがち。しかし実際の美というのは自然界を見ればわかるように移ろいゆき、絶えず変化していると思う」

バースはそう言い、あえて古典的で家具のアイコンとなっているデザインを一度燃やして形を変容させてしまった。これは「アイコンを所有する」ということに対して人が持つ安心感をシニカルに批判しているようでもある。それにしても、バースの家具はどれも目を離れた瞬間、動き出して形が変わっているんじゃないだろうか、と思えるほど愛きょうのある表情を持っている。

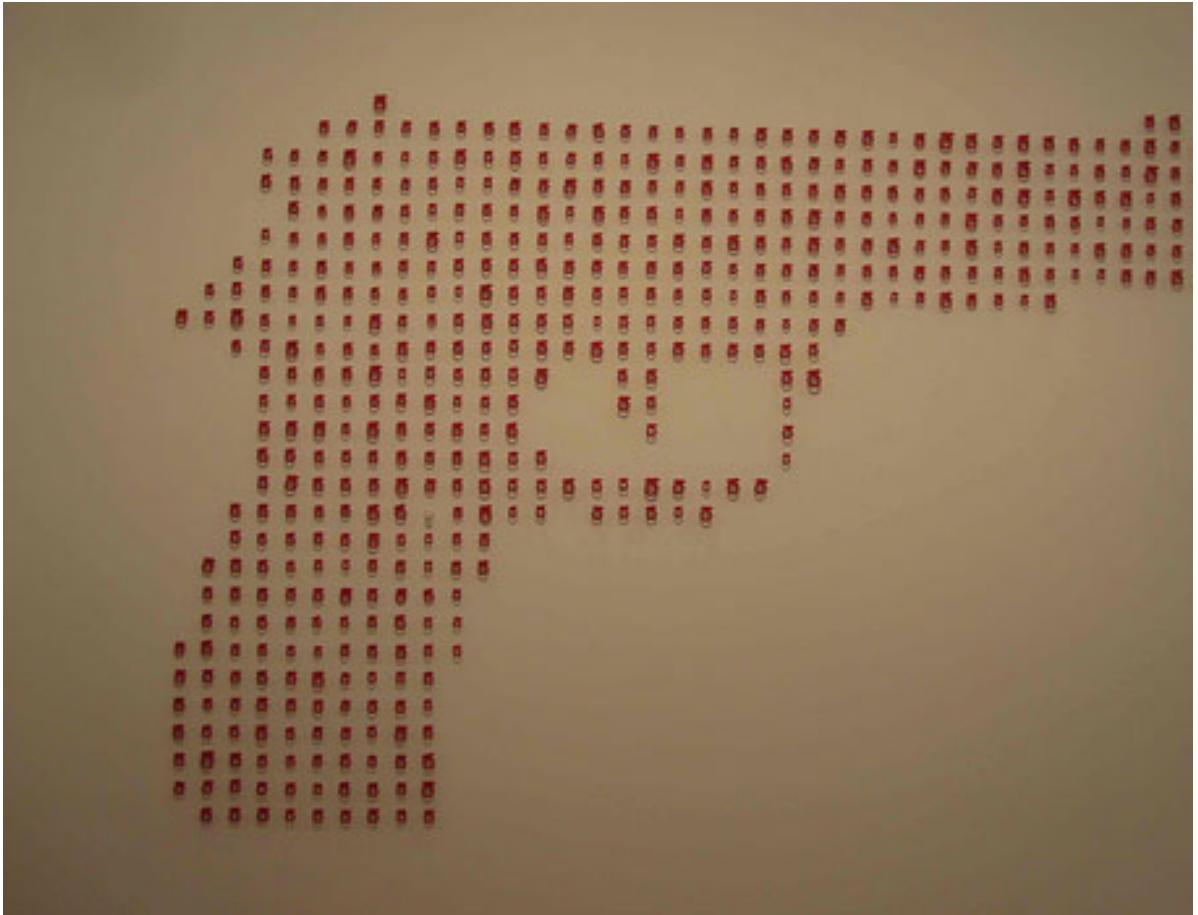
Maarten Baas マーティン・バース



リアルタイムシリーズのクロック

また、ジュエリーを通して「態度」を示しているのがデザイナーのテッド・ノートン。たとえば無数のリングをアクリルのハンドバッグに閉じ込めた作品《リップペンズ・バッグ》。リップペンズという男性のために作った作品で、リップペンズがこれまで関係を持った女性にプレゼントした、すべての指輪を一つのバッグに閉じ込め、過去すべてを今の女性の手にゆだねるという態度を現した。

Ted Noten テッド・ノートン



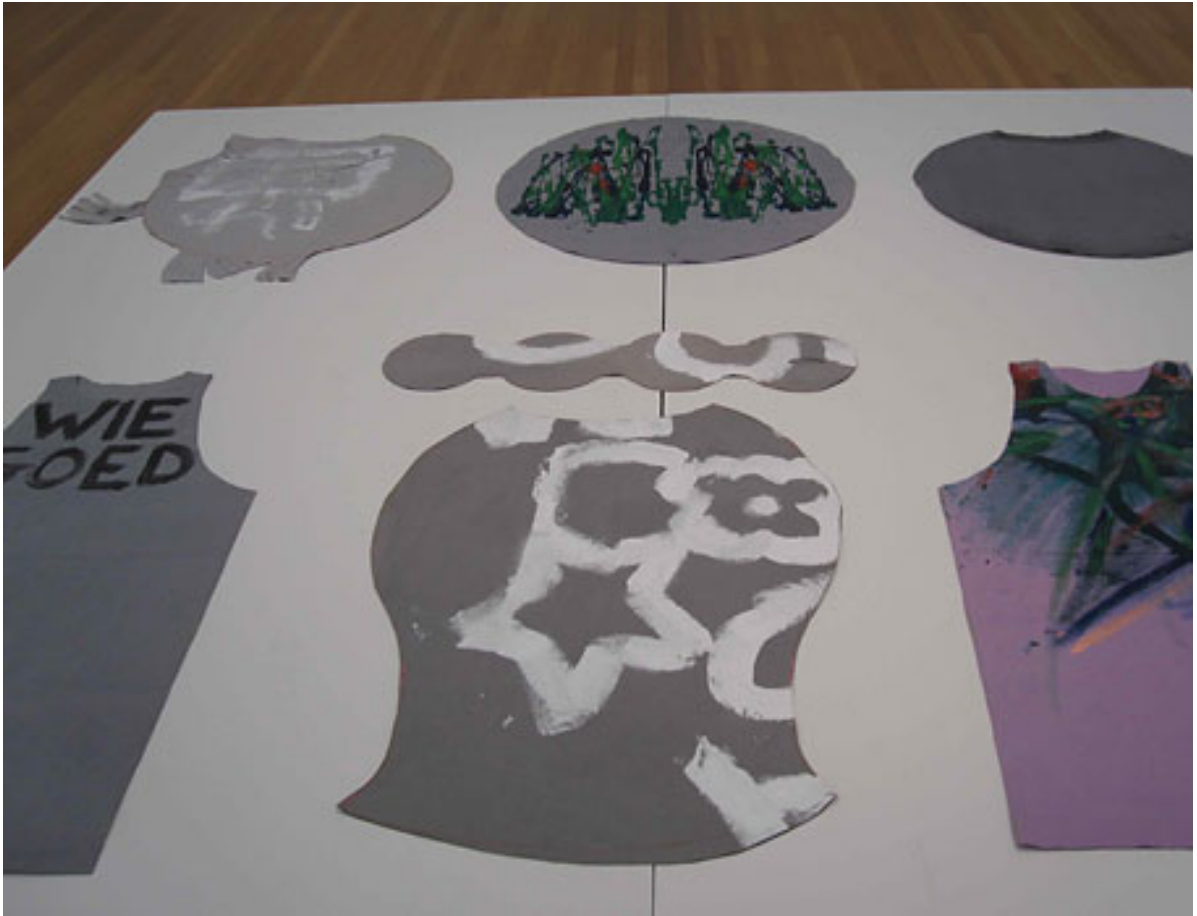
あなたの指輪と換えてみない？



リップンズ・バッグ

また、アーティストのタケトモコはホームレスのみなさんに衣服作りに関わってもらうことでこれまで潜んでいた彼らの創作性を引き出している。12月にはワークショップを開くそうで、ホームレスという社会の一面に対してアートがどんな役割を果たすことができるか期待したい。

Tomoko Take タケ・トモコ



「オランダのアート&デザイン新言語」展

2011年1/30まで「東京都現代美術館」 10時～18時(入場は17時半まで)。

<http://www.mot-art-museum.jp>